# キャンドルサービス

## 1 ねらい

キャンドルサービスは、暗闇の中でおごそかに燃える火を見つめながら、自他ともに見つめあい、語り合い、親睦を深め合う集いである。集団宿泊活動の成果の確認、またはなかま意識の高揚の場として、最適の活動である。

(1) 自己を見つめて仲間の一員としての認識を深め、よりよいなかまづくりをしようとする気持ちを養う。
(2) 仲間とともに歌・踊り・寸劇などに取り組み、協力や友愛の精神を高める。
(3) 深い印象と強い感激を与え、よりよい生活への意欲を高める。

## 2 所要時間　2時間程度

## 3 活動場所および定員　体育館(100 人以上)、大研修室(100 人程度)、管理棟3F 研修室(定員 60 人)

## 4 服装　動きやすい服装　上ぐつまたは体育館シューズ(床が滑りやすいため) トーチ

## 5 準備物

- 必要に応じて準備するもの
  懐中電灯
- 当所に常備してあるもの
  キャンドル(大・中・小)、燭台、アルミホイル、ライター

## 6 役割分担

| 役割名 | 人数 | 役割の内容 |
|---|---|---|
| 営火長 | 1 | つどいの責任者　はじめと終わりのことばを述べる |
| 司会者 | 1 | 企画と進行　リハーサルの実施　だしものの指導と調整 |
| 火の守 | 4 | 燭台の準備　後始末　キャンドルの配布　照明　音楽　後始末 |
| 火の使い | 2 | 正と従者　正は大きいキャンドルを持って入場する |
| 誓詞者 | 数名 | 班の代表　誓いの言葉を述べる |

## 7 活動の流れ(展開例)

第1部　ともしびを迎える

| プログラム | 内容および留意事項 |
|---|---|
| 1 集合 | ・予備集合場に集合<br>・うたを歌うなどして雰囲気をつくる<br>・キャンドルとアルミはくを手渡す |
| 2 全員入場 | ・司会を先頭に入場し、サークルをつくる<br>・営火長はあらかじめ会場で待つ<br>・火の使いも配置につく |
| 3 司会者のことば | ・厳粛な雰囲気を保つように気をつける |
| 4 うた | (「遠き山に日は落ちて」、「夕やけこやけ」、「四季の歌」など) |
| 5 ともしび入場 | ・火の使いは歌の途中で点火し、入場後に営火長の前へ出る<br>・従者は営火長の左横へ<br>・火の使いより分火してもらう　分火のあいだハミング |
| 6 誓いのことば | ・誓詞者はキャンドルを高く掲げて、ゆっくり力強く述べる<br>・大キャンドルを決められた位置へおき、自席へ戻る |

| | |
|---|---|
| 7　営火長のことば | ・火に関すること、研修の目的や成果、規律、友愛、協力、奉仕、文化、平和、生命、努力などについて数分間話す |
| 8　う　　た | (「若者たち」、「遠い世界に」など) |

第2部　親睦の火を囲んで

| プログラム | 内 容 お よ び 留 意 事 項 |
|---|---|
| 1　うた、ゲーム、フォークダンス等 | ・司会のリードで進行する<br>・司会者は楽しい雰囲気をつくるよう配慮する |
| 2　ス　タ　ン　ツ | ・時間は5分程度で、個人プレーでなく、班の全員が協力する。<br>・ユーモアに富み、健康的で自分の生活などから考え創作したものが望ましい。<br>・歌は、単に斉唱するだけでなく、輪唱や合唱にして変化をつける。<br>・自分たちだけで楽しむのではなく、みんなに見てもらい、いっしょに楽しむものである。また終われば拍手でたたえるようにする。 |

第3部　ともしびをみつめて

| プログラム | 内 容 お よ び 留 意 事 項 |
|---|---|
| 1　う　　た | ・歌うことで気持ちを落ち着けて、静かな雰囲気をつくる(「星影さやかに」、「ふるさと」など)<br>・歌の間に司会は1本の大キャンドルを残し、ほかは順に消し営火長に手渡す |
| 2　営火長のことば | |
| 3　う　　た | (「友よ」、「今日の日はさようなら」など) |
| 4　退　　場 | ・司会を先頭に退場し、戸口でキャンドルを消し、箱に入れ、予備集合場で指示を与え解散する<br>・火の守を中心に、燭台や用具の後始末をする(床の清掃は翌朝でもよい) |

## 7　留意事項

(1)　実施時間が延びないようにし、全体が2時間程度で終わるようにする。

(2)　キャンドルを分火するときはつけてもらう人がろうそくを傾けるようにする。(火のついたろうそくを傾けると、ろうがたれて危険である。)

(3)　キャンドルを参加者に手渡すのは次の 3 つのいずれでもよい。

(ア)　予備集合場で

(イ)　入場のとき入口で

(ウ)　第2部の終わりに

(4)　ろうそくは消火を確認し、もえるゴミに入れる。床にろうが落ちていないか確認し、落ちていればものさしなどではぎとる。